

### 厳しさ増す水道事業 料金改定は考えず 経営改善を進める

**問** 水道事業の令和元年度決算は、昨年度に比べ、営業利益が約1億5千万円、経常利益と当年度純利益がそれぞれ約1億8千万円減少している。今後の経営を問う。

**答** 本市を含む多くの水道事業の料金制度は、一般家庭の料金を低額に設定し、工場などの大口使用者から収益を上げて赤字を埋める仕組みであるが、大口使用者が水道水から工業用



いつまでも安心して使えるように

水に切り替えるなど、こうした構造が成立しなくなってきた。また、本市は今年度、新型コロナウイルス感染症に対する支援として、6カ月分の基本料金を免除している。現在、経営改善策として職員数を削減し、浄水場の運転業務や料金徴収業務などの民間委託を進めている。こうした経営努力により、直ちに料金改定することとは考えていない。

### 高齢者の重症化防ぐ インフル予防接種 費用を無料化

**問** コロナ禍において、インフルエンザによる高齢者の重症化リスクの回避と医療機関の負担軽減のため、高齢者に対する予防接種を無料化できないか。

**答** 高齢者はインフルエンザに感染すると重症化や死亡することが多いため、予防接種法は65歳以上と、60歳から64歳で身体障害者手帳

1級相当の人を接種対象者としている。例年、本市では対象者の約5割が接種を受け、市民税非課税世帯や生活保護世帯の人以外は1500円の接種料金を負担している。今冬は、新型コロナウイルス感染症との同時流行が懸念されており、高齢者の命を守るため、1人でも多く接種してもらえよう、国の新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、費用の無料化を実施したい。

### 明石川のJR架橋改修工事 川幅を広げ安全性を向上

令和7年度の完成を目指す

**問** 明石川にかかるJR架橋の改修工事が今年9月から始まる。今後の予定や改修による治水効果、工事中の生活環境への配慮および交通安全対策について聞く。

**答** 明石川流域の治水対策には、これまで兵庫県と本市や市民が一体となり取り組んできた。その一環として、JR架橋部の川幅が河川計画より約10メートル狭く、流下の妨げになっている現状を解消するため、県はJR西日本と協定を締結し、改修工事を行う。予算規模は40億円を超え、令

和7年度の完成を目指している。この工事により、洪水の危険性が低下する。工事では、振動・騒音の少ない工法を採用するとともに、歩行者等の安全に配慮するため、工事車両の通行時には交通誘導員が配置される予定だ。



いよいよ始まる改修工事

### 教育委員会委員 任命に同意

教育委員会委員の任期満了に伴い、栗岡誠司氏(69歳・魚住町長坂寺)を引き続き任命することに同意しました。同氏は県立明石北高等学校の校長などを歴任、現在は神戸常盤大学保健科学部医療検査学科で教授を務められています。

本市の教育委員会委員は4人で任期は4年です。

### 固定資産評価 審査委員会委員 選任に同意

固定資産評価審査委員会委員の任期満了に伴い、大家通孝氏(71歳・神戸市中央区)を引き続き選任することに同意しました。同氏は不動産鑑定士として、兵庫県不動産鑑定士協会監事などを務められています。

### 人権擁護委員 推薦に同意

人権擁護委員の任期満了に伴い、水田和子氏(70歳・大久保町大連)を引き続き法務大臣に推薦することに同意しました。同氏は市ボランティアアドバイザー代表などを歴任、現在は地域ボランティア大久保すみれ会代表などを務められています。

本市の人権擁護委員は13人で任期は3年です。

## 安心して暮らせる日々を取り戻す

### 文教厚生 常任委員長に聞く

**【担当分野】** 教育や福祉、介護保険、子育て支援・子どもの健全育成、保健衛生など、市民の暮らしを支える分野を審査します。



**寺井 吉広**

**【議会歴】** 在職3期。監査委員、総務常任委員長、新庁舎整備検討特別委員長などを歴任。56歳。

**重点的に取り組む事項**  
感染対策局では、新型コロナウイルス感染症対策に取り組み、相談体制・情報発信を強化し、市民の皆さまの不安軽減を図ります。さらに、市民病院へ財政支援を行うなど、地域医療体制を確保し、検査体制を強化します。福祉局では、高齢者や障害のある方などに對する見守りや相談、訪問体制の強化を図ります。こども局では、子育て世帯の生活支援を行うとともに、待機児童対策として、引き続き受入枠の拡充や保育士確保に努めます。また、教育委員会では、全ての小中学校・特別支援学校に1人1台の端末整備を進めています。

**委員長として一言**  
安心して暮らせる日々を取り戻すため、迅速に審査を行い、やさしいまち明石の実現を目指してまいります。

## 経済の早期回復を目指す

### 生活文化 常任委員長に聞く

**【担当分野】** コミュニティや文化・スポーツ、環境、産業生活振興など、市民の身近な分野を審査します。



**榎本 和夫**

**【議会歴】** 在職3期。副議長、監査委員、建設企業常任委員長などを歴任。64歳。

**重点的に取り組む事項**  
新型コロナウイルス感染症の影響で経済が停滞しています。早急に取り組みべきは、以前の活気ある明石の姿を取り戻す施策です。3割おトク商品券や事業者に対するウイズコロナ感染対策助成金など、さまざまな事業を実施し、コロナ禍により一変した経済と市民生活の一刻も早い回復を目指した取り組みを進めます。

**委員長として一言**  
また、令和4年秋に延期となつた全国豊かな海づくり大会兵庫大会は、天皇、皇后両陛下にご来明を賜り開催される予定です。今から機運を盛り上げていきます。

当委員会は、所管する部署が多く、責任の重さを感じています。スケジュール感を持ち、スムーズな委員会運営に取り組んでまいります。